



2025 冬号

廿日市市

# 地域支援員だより



写真：「商店街みんなの広場 マルマル」入口ペイントお披露目会

## 地域支援員とは

地域の皆さんと地域おこし活動に取り組んだり、地域内外の交流を図ったり、地域の情報発信を行い、地域の力を強くするために、廿日市市職員として1年単位で任用されています。任期は最長3年で、今年度は6名の地域支援員が活動中です。

この冊子を通して、各地域支援員の取り組みや活動を知っていただけたらと思います。

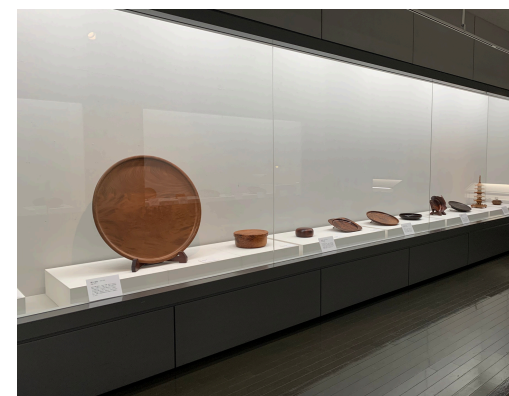
## お知らせ

商店街活性化担当と佐伯高校魅力化担当は、今年度末で任期が終了します。令和8年度からの地域支援員募集については、廿日市市ホームページの掲載をご確認下さい。



## 宮島細工の匠展、来場者1000人超えの盛況

11月20日から30日まで、はつかいち美術ギャラリーで「宮島細工の匠展」が開催され、会期中にはテレビ・ラジオ・新聞各社でも展覧会をご紹介いただきました。10日間で延べ1000人を超える来場者を記録し、大きな賑わいとなりました。会場では、下村による作品解説・ギャラリートークが行われ、毎回20人前後の方にご参加いただきました。熱心な聴講者が集まり、宮島細工の技と歴史への理解を深めていただく機会となりました。また、24日には伝統工芸士の<sup>おのひろし</sup>大野浩さんによる宮島彫体験が実施され、事前予約は満員となるなど、こちらも大変好評をいただきました。今回の展覧会を通じ、多くの来場者の皆さまに宮島細工の魅力をお伝えすることができたと感じております。今回の開催にあたり、共催としてご支援くださいました（公財）廿日市市芸術文化振興事業団の皆さま、ならびに貴重な作品をご提供くださいました皆さまに深く感謝申し上げます。また、展示にご協力くださいました宮島歴史民俗資料館、宮島細工協同組合の皆さまにも、心より御礼申し上げます。



チラシ

展示会場

宮島彫体験 体験者作品  
伝統工芸継承担当 下村

## 商店街みんなの広場『マルマル』を利用しませんか？

皆さんは廿日市一丁目集会所横にできた「商店街みんなの広場 マルマル」をご存じですか？

年代問わず誰もが気軽に集まれる場所として整備し、2025年8月8日に広場のお披露目イベントを行いました。お披露目後は、ランチや読書、あるときは子どもたちが側転の練習をするなど日常的に使われています。

また、週末はマルシェやハロウィンイベント、商店街主催のお祭りなどでも利用されています。

ぜひ皆さんもマルマルに遊びに来てください！

※イベント等で「マルマル」を利用したい方は、廿日市市のホームページをご確認ください。



マルマルでティータイム



ハロウィンイベント



KendamaじゃNight!



マルマルでランチタイム



### 今後のイベント

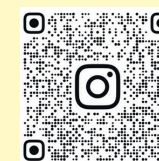
#### ★けんだマルシェ

2026年1月17日(土)10時～17時まで  
主催：廿日市駅通り商店会

#### ★駅伝応援×マルシェ

2026年1月18日(日)10時～15時頃  
主催：廿日市市 産業部産業振興課

「商店街みんなの広場マルマル」  
については  
Instagramをチェック!!



@marumaru.0808

### その他商店街イベント

#### ★初夢大抽選会

日時：R8年1月12日(月祝)  
10時～16時まで  
場所：JR宮内串戸駅  
主催：串戸商工振興会

商店街活性化担当 狩山



## 地域支援員から見た佐伯高校の魅力をご紹介します

### ＊ 佐伯高校生の笑顔・元気な挨拶

初めて佐伯高校を訪れた日のことを今でも覚えています。廊下で出会う生徒の「こんにちは！」という元気な声と、まっすぐ向けられた笑顔がとても印象的でした。佐伯高校生と言葉を交わすと、学校生活を楽しんでいることが一目で伝わり、こちらまで明るい気持ちになります。

### ＊ 生徒主体で“チャレンジ”できる学校

佐伯高校では、生徒が自分たちで学校生活をつくっていく場面が多くあります。1年生は入学してすぐ、修学旅行の行き先を自分たちで決めます。体育祭の種目も生徒が考案。さらに「SAEKI QUEST」では、個人の興味にあわせたテーマで探究を進め、コンテストで入賞すると活動に予算がつくなど、挑戦を後押しする仕組みが整っています。

### ＊ 一人ひとりに寄り添う学習環境

小規模校ならではの丁寧な個別支援も佐伯高校の強みです。教職員1名あたり生徒数は6.7名で、全国平均13名の約半分。昨年度は、生徒一人ひとりの希望に合わせた進路指導が行われ、国公立大学に7名が合格しました。生徒の努力はもちろんですが、探究学習で学んだ経験も進路の選択に良い影響を与えていると感じます。



佐伯高校魅力化担当 稲田

## 就農パンフレットを作成しました！

現在、佐伯・吉和地域を中心に農業の担い手不足、それに伴う耕作放棄地の増加が課題となっています。地域外から新たな担い手と呼び込もうと、この度、**廿日市市で就農を考えている方向けのパンフレットを作成しました！**補助金や支援制度、地域で頑張っている農業者へのインタビュー、その他廿日市市独自の情報を掲載しており、これ一冊で基本的な情報が理解できるようになっています。専業農家志望の方から気軽に農業を始めたい方まで、幅広い層に見て頂ける内容に仕上げました。今後このパンフレットを利用して、様々なイベントに参加し廿日市市の農業をPRしていきたいと思います。パンフレットは本庁の農林水産課、佐伯支所環境産業係でお渡しできます。農業に少しでも興味のある方、是非読んでみてください！



## 広島県就農応援フェアに参加

9月6日(土)、広島県民文化センター(広島市)で開催された県の就農応援フェアに、廿日市市としてブース参加しました。上に紹介したパンフレットの初披露となり、結果的には計6組の相談者が来られました。相談者は広島市在住の方が多く、通いやすい点や、生産地と都市圏との距離が近い点などの廿日市市の強みに興味を持たれている様子でした。また、専業農家よりも初心者の方や半農半X的な生活を望む相談が多かったことから、農業教室や市民農園の案内のほか、空き家バンクなど移住定住促進とも絡めた話をすることが重要であると感じました。

地域農業活性化担当 乾

## 「空き店舗の再生活動 in 津田商店街」始動！

私が地域支援員に就任した際、「地域に根差した新たな事業を創出し、地域経済に循環を生み出すこと」を目標として掲げました。その実現に向け、津田地区・津田商店街において、空き店舗を活用した地域活性化プロジェクトを進めています。この取組は、商店街の空洞化という地域課題に対し、持続的な利活用モデルを提示し、にぎわいの再生を図ることを目的とするものです。対象となる空き店舗は、かつて地域の方々に親しまれ、日常的に利用されていた「藤井精肉店」。長年、地域の暮らしを支えてきた一方、閉店後は活用の機会がなく、設備の老朽化や内装の損耗が進んでしまいました。こうした背景を踏まえ、この思い出深い店舗を再び地域の拠点として甦らせるべく、必要な改修工事を実施しています。改修工事については、地元事業者である西川建設(有)に施工を依頼し、町内会・自治会や商店街関係者の意見を伺いながら、カフェ・物販・ワークショップなど多用途に対応できる空間づくりを進めています。都市部の住民や移住希望者、学生、企業など地域外の多様な方々が訪れやすい環境を整えることで、新たな交流や関係人口の創出を促し、地域内外のつながりを広げていくことを目指しています。

今回の空き店舗改修は地域支援員として培ってきた経験を活かし目標を形にする取組の一つです。今後も、開業に向けた準備や運営体制の検討を進めつつ、佐伯地域の持続的な発展に寄与できるよう、引き続き取り組んでまいります。



## 2026年春 開業予定

随時、見学会やDIYイベント  
ワークショップなど実施予定  
です。お楽しみに!!

定住推進担当 田崎

## 玖島の秋を満喫♪

コミュニティ文化部主催の「マジクジマ＊コスモスプロジェクト」と「OIMOプロジェクト」。昨年に続き、満開のコスモス畑には多くの方が訪れました。11月初旬開催のお芋掘りと焼き芋には、30名弱の参加者があり、銀杏の木の下でホクホク焼き芋と芋汁を味わいました。

## クリスマスの飾りを作ろう



11月29日(土)、クリスマスのスワッグとオーナメントのワークショップを行いました。子どもから大人まで16名の参加があり、一人一人素敵な飾りが完成しました



## 「玖島に遊び場を作ろう大作戦」始動！

佐伯地域に遊び場や集う場がもっとあったらいいのに…の声から始まった、遊び場を作ろう大作戦。玖島花咲く館は、赤ちゃんからお年寄りまで様々な世代の方が来館されることから、内外にちょっとした貸出しおもちゃや遊び場を整えていくことにしました。11月は、昔遊びの木のおもちゃを色塗りしました。12月は木のベンチのお手入れ。1月は書架整理。ワークとわいわいおしゃべりの会です。ぜひどなたでもぶらりと遊びに来て下さい♪



玖島神楽団上演  
於旧玖島小体育館



ハロウィンイベント



1周年を迎えた  
宅配「花咲く弁当」



玖島地区では、秋から冬にかけて、畑の野菜や果物で干し柿・柚子茶・餅・漬物など、昔ながらの保存食作りが行われています。加工所でもレシビやコツを教わり、保存食作りに取り組んでいます。

玖島地区活性化担当 東